

だ み よ く り に

No.767 令和 7 年 11 月 1 日発行

「平和に輝く、その色で」



～ 心清らかな子ども・大人が集まるところであってほしい
いつまでも子どもたちのことを見守っていてほしい
いちょうのように、実のある人になってほしい
紅葉のように、色づいて輝いてほしい
考える人、自己判断・行動できる人になってほしい ～

「71 年間、1 つひとつに想いを込めて築かれてきた園です」

入園説明会で、こう、わたしは話し始めます。冒頭のものは、園名に込められた意味、シンボルツリーに込められた想い、園歌に込められた願い、教育目標です。わたしは初代園長にお会いしたことがありませんので、想いを引き継いできた先生方が話されていたものを書き溜めてきました。冒頭のものはほんの一部でたくさんの想いがみくに学園には込められています。もう何回、説明会でこの話をしたでしょうか。この話をする度に、自分の中にこの言葉の重みが増しています。単に伝承しているつもりではなく、それを今引き継いでいる当事者であるという気持ちでいるからです。これを読んだ皆さんから誰かへ、そして子どもたちへとこれからも引き継がれていくことを願って記します。ちょうど、紅葉も輝く季節ですので、もしよろしければ、子どもたちと園歌を歌い、園歌に込められた想いを感じとっていただければ嬉しいです。

さて、先月は第 71 回の運動会開催にあたり、ご理解ご協力くださり、ありがとうございました。子どもたちへの拍手や観覧エリアでの譲り合いなど、保護者の皆さまの温かい雰囲気の中で子どもたちは運動会を行うことができ、幸せです。わたしたち保育者は教育保育をする上で計画を立てるのですが、わたしはどうしても、最善と思って決める事柄が、子ども・相手にとってどうだろうか、と常に考えてしまいます。相手の顔が見えないと、不安になりませんか。立場上考えることが多いのですが、その時に必ず、自分の想いだけや独り善がりにならないように、相手がどう感じるだろうかと相手の顔を想像するようにしています。ですので、子どもたちの表情、言葉を自分で見聞きすることで、答えに気づくことができるのです。運動会もそうでした。

- 帰り際に「そうれんしゅう、たのしかった」と満面の笑顔で言ったお子さま
- 本番の組体操中、拍手をもらう度にはにかむように笑顔になったお子さま
- 閉会式で「あしたからがんばる」と楽しそうないきいきとした表情で言ったお子さま など

子どもたちの中から自然とわき出た言葉や表情に、「やってよかった」と感じ、答えに辿り着いた感覚をもちました。計画を立てるにも、何かを考えるにも、必ず相手・子どもたちのことを真ん中に思い浮かべることをこれからも大切にします。そして、一昨年施行された「こども基本法」が目指す「こどもまんなか社会」。こういう小さな積み重ねが、大きなビジョンに繋がるのだと思います。子育て、教育保育に携わるわたしたち 1 人ひとりが尊いことをしているのです。

今年も 11 月になりました。4 月から半年経ち、子どもの姿に変化を感じやすい時期になりました。その時のポイントです。横の誰かと比較する、ではありません。目の前のお子さまの縦軸＝過去を浮かべてください。お子さまの年齢関係なく、大きくなったもこういう視点でお子さまのことを見ていただくことは、子育ての一助になると思います。ある年少さんは、製作の準備をする時に「じゅんばんだよ、せんせいがよんだらいくんだよ」と友だちに一生懸命話していました。入園してからこれまでにその子なりに習得したことを言葉で他者に発している、このたった一言からも成長を感じ、涙腺が緩みました。

今年も残りあと 2 か月というところまで辿り着きました。秋があっという間に通り過ぎてしまうのではと感じるくらい気温が急に下がりましたが、体調崩されていませんか。子育て、家事、仕事、療養、介護、勉強……本当に毎日お疲れ様です。自分を労ってください。目の前の人への感謝の気持ち、想像力、思いやり……「人として」、そして「こどもをまんなかに」を大切に、年末に向けて過ごしてまいります。